第3回ベネッセ・駿台　大学入学共通テスト模試

# 実施結果を踏まえた共通テスト対策指導のご提案

株式会社ラーンズ

## 日本史B　　第２問　問４（２）「11」

## 年表と史料を関連づけて考察する問題で、各学力層で差がついた

年表

| 年 | 日本と唐・新羅との関係 |
|---|---|
| 735 年 | 新羅が日本に断りなく国号を変更したため，日本は新羅使を追い返した。 |
| 736 年 | 遣新羅使が派遣された。 |
| 738 年 | 来日した新羅使を入京させず，大宰府で接待した。 |
| 739 年 | 遭難した遣唐使が渤海経由で帰国した。 |
| 740 年 | 遣新羅使が派遣された。 |
| 743 年 | 筑前に来航した新羅使が礼儀を失したことを責めた。 |
| 752 年 | 新羅使に同行した商人が金などさまざまな物品をもたらした。 |
| 753 年 | 唐での儀式で，前年に派遣された遣唐使が新羅使と席次を争った。<br>遣新羅使が新羅で無礼な待遇を受けた。 |
| 755 年 | 安史の乱（～763 年）が起こり，唐の混乱が始まった。 |
| 759 年 | 渤海経由で遣唐使が派遣された。<br>藤原仲麻呂が新羅攻撃を計画した。 |
| 760 年 | 新羅使が礼儀を欠くとして日本から帰国させられた。 |
| 764 年 | 新羅使が来日した。 |
| 777 年 | 遣唐使が派遣されたが，遣唐大使は病気を理由に入唐しなかった。 |
| 779 年 | 大宰府に滞在中だった新羅使の入京を認めた。 |
| 780 年 | 新羅使が日本に方物を献じた。 |
| 838 年 | 最後の派遣となる遣唐使が入唐した。 |

**史料**　諸公卿をして遣唐使の進止を議定せしめむことを請ふの状

右，臣某，謹みて在唐の僧中瓘，去年三月商客王訥等に附して到る所の録記（注1）を案ずるに，大唐の凋弊（注2），之を載すること具なり。…（中略）…臣等伏して旧記（注3）を検するに，度々の使等，或は海を渡りて命に堪へざりし者有り，或は賊に遭ひて遂に身を亡ぼせし者有り。唯だ，未だ唐に至りて難阻飢寒の悲しみ有りしことを見ず。中瓘の申報する所の如くむば，未然の事，推して知るべし。

（『菅家文草』）

（注1）録記：唐にいる僧の中瓘が，この資料が記された 894 年の前年に商人の王訥に託して送ってきた記録のこと。
（注2）凋弊：衰退。唐では９世紀に黄巣の乱（875～884 年）が起きていた。
（注3）旧記：過去の記録。

(2)　ヒカルさんは，**年表**及び**史料**をふまえて９世紀の対外関係についてさらに発表をしようとしたところ，ほかの生徒から**質問**X・Yが出た。**質問**X・Yと，それに対してヒカルさんが用意した**回答** a～d との組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 11

**質問**

X　**史料**の筆者は，録記と旧記をふまえてどのように考えたのか。

Y　９世紀末に遣唐使が中止された理由として考えられることは何か。

**回答**

a　遣唐使船が東シナ海を横断する距離の短い南路をとるようになり，危険がやわらいだことに安心した。

b　唐に渡った後，反乱など不安定な情勢にまきこまれて飢えや寒さで苦しむ人が出るかもしれないことを危惧した。

c　延喜格式の編纂が行われるなど律令政治の再編が独自に進められ，唐で直接学ぶ必要性が低くなっていたこと。

d　商船が来航するなど民間での貿易が行われるようになり，国家が正式に使節を派遣する必要性が薄れていたこと。

① X－a　Y－c　　② X－a　Y－d
③ X－b　Y－c　　④ X－b　Y－d

**第2問　問4（2）「11」**

| | |
|---|---|
| 正解率 | 28.4% |
| SS70～75 | 45.9% |
| SS65～70 | 35.9% |
| SS60～65 | 30.3% |
| SS55～60 | 27.6% |

**2022年度第3回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試**
**「日本史B」**

| | |
|---|---|
| 受験者数： | 84,635人 |
| 平均点： | 47.9点 |
| 標準偏差： | 17.8 |

【出典】 問題・集計結果データともに、2022年度「第3回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試」より。

© Learn-S

# 実施結果を踏まえた共通テスト対策指導のご提案



**日本史B**　**第２問　問４（２）　「11」**

## 年表と史料を関連づけて考察する問題で、各学力層で差がついた

**結果分析**

第2問の問4（2）は、9世紀の対外関係に関する質問について、**年表や史料などを参考に解答するという設定の問題で、各学力層で差がつきました**。

史料の筆者の考えを史料から読み取るとともに、日本国内の状況と関連づけて考察する力が求められました。

本問では、史料の読解と知識が求められますが、**延喜格式の編纂時期が理解できているかで差がついたと考えられます**。

**指導のご提案**

史料を読解する力に加えて、教科書で学習した知識を確実に習得しておくことが求められます。これからの1か月では、表やグラフなど**さまざまな資料を用いた問題演習を重ねるとともに、問題演習を通して知識事項を確実に習得することが大切です**。幹となる流れを習得した後に、関連事項を結びつけていく学習が効果的です。

共通テストでは、さまざまな資料から情報を抽出し考察する出題が予想されます。**限られた時間のなかで情報を整理し、確かな知識をもとに解答する練習を重ねることも大切と思われます**。

© Learn-S